



緑の園 11月号

ヒルトップハイツ

グリーンプラザ

デイサービスセンター

だより

第53号

令和 2年11月1日発行



Billy Joel/Glass Houses(1980)

## 今後の新型コロナウイルス感染症 対策について…。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に歯止めがかりません。

北海道においては10月中旬以降の感染者の増加は連日、最多を更新している状況であることから先月の28日に北海道独自の「警戒ステージ」の「2」に引き上げ、2週間を集中的な対策期間としました。

今回の感染者数の増加で心配されることは感染者の中心は札幌市内ではあるものの、全道の各都市に拡大しつつあることです。

釧路市の特別養護老人ホームにおける集団感染の発生は同じ特別養護老人ホームに勤務するものとして、気の毒というよりほかはなく一日も早い終息を祈るばかりです。

私たちの仕事は今回のコロナ禍において「エッセンシャルワーカー」と呼ばれたこともあり意義や存在意義は明らかで「介護」を通じたなかから「働き甲斐」や「喜び」を感じることができるという仕事です。



これが私たちの場合、職責に必ず伴うストレスに直面したときに「〇〇のために今は…」といったがまんでいけることにつながります。

したがって、このがまんのすべてが「悪い」というわけではなく、困難な事象を解決していくために**がんばろう**とする意欲の下支えにもなっていることは事実です。

今年の「コロナ禍」のもとでは「介護」の現場にとって感染症対策、活動自粛等にかかわる業務の負担増や感染した場合の施設の業務への影響の大きさへの不安、利用者様のお一人おひとりの特性に応じた配慮や対応の難しさ、そしてご家族の方々のご不安に対する対応等今までとは性質の違うものがストレスの増大要因となっています。

現在、社会全体が大きな不安に包まれています。いつ、どこで感染するかわからないこの感染症に對しての不安や恐怖に起因するストレスはたくさんの人に影響を及ぼしています。

緊急事態宣言が発令されていた4月下旬(29日)私は、休暇明けで清里町から遠軽町丸瀬布に戻る道



中、距離にして130km少しありますがすれ違った車の数はわずか20台でした。

時間にして約7分くらいに1台すれ違う程度で私の車以外に先行車や後続車そして対向車がほとんどいない状況は何とも言えない不安を覚えました。

その時の状況に近づきつつあるかどうかはわかりませんがこのような状況であるからこそ職員みなとの連帯感や信頼関係を大切にしたいと思えます。



**疫病退散！コロナに負けるな!!** (おばら)

## 紅葉狩りに行ってきました。



養護老人ホーム緑の園では先月の21日(水)の午前と午後の2班に分かれて「いこいの森」まで「紅葉狩り」に行つてまいりました。

10月も下旬となり車中からの見物となりましたが久しぶりの外出ということもあり、参加されたお年寄りの方々総勢25人皆さん口々に「きれいだね」とか「外の空気を吸えて気持ちいい」等喜んでおられました。

また、地域密着型特別養護老人ホームグリーンプラザでは24日(土)に8人のお年寄りの方が丸瀬布市街の紅葉スポットに散策に出かけました。

こちら車中からの見物となりましたがそれぞれきれいな風景を目の当たりにしてみなさんととても喜ばれていたとのことでした。



## 秋の火災避難訓練を実施いたしました。



緑の園・グリーンプラザでは28日の水曜日にヒルトップハイツおよび丸瀬布デイサービスセンターでは14日の水曜日に火災避難訓練を実施いたしました。



コロナ禍にある今年自治会合同の避難訓練を実施できない状況が続いていますがそれぞれの施設で手順



に従って訓練を実施しました。

## 新型コロナウイルス感染症に関する今後の取り組みについて

前ページで紹介させていただきましたとおり北海道におきましては警戒ステージが「2」なことをふまえ10月29日以降特別養護老人ホーム丸瀬布ヒルトップハイツ、養護老人ホーム緑の園および地域密着型特別養護老人ホームグリーンプラザにおきまして当面の間面会を制限させていただくこととなりました。

ご面倒・ご不便をおかけいたしますがなにとぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 職場内研修を開催いたしました。

先月の21日(水)緑の園とグリーンプラザ合同で「虐待防止法の理解とストレスマネジメント」の演題で講師に紋別市の羽田三紀子様をお招きし開催いたしました。

職員24名が参加のもと「コロナ禍」におけるストレスの対処方法や虐待防止に関する法的な理解について1時間余りとてもお勉強になる講義をいただきました。